

第5回 糸魚川市駅北まちづくり会議（実践会議） 次第

令和2年7月29日(水)18時30分

駅北広場キターレ

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 駅北まちづくり戦略（素案）確認 . . . 資料1

(2) 全体の目指す姿

- ・ 目指すまちの未来（キャッチコピー）について

(3) 実践活動の推進にあたって（セッション5 関連） . . . 資料2

(4) 実践プログラムについて（セッション4 関連）

- ・ 子育て部会
- ・ 地産地消部会
- ・ 高齢者元気部会

(5) にぎわいの拠点施設の方向性について（セッション5 関連） . . . 資料3

4 連絡事項等 . . . 資料4

5 閉 会

糸魚川市駅北まちづくり会議（実践会議委員）

R2. 4. 1 現在

※50 音順 敬称略

No.	団体名等	役職等	氏名	備考	部会
1	日本料理鶴来家	専務取締役	青木 資甫子	市民会議委員、H30 スクール参加者	地産地消
2	株式会社アオ	代表取締役	五十嵐 昌樹	H31 リノベーションスクールサブユニットマスター	高齢者元気
3	有限会社池原印刷所	代表取締役	池原 寿子	個店の魅力アップ女性の会副会長	高齢者元気
4	花重		磯貝 正子	駅北復興まちづくり計画検討委員会前委員、個店の魅力アップ女性の会	高齢者元気
5	株式会社カネタ建設	代表取締役	猪又 直登	H31 リノベーションスクールサブユニットマスター、市民会議委員	高齢者元気
6	ペンション・クルー	代表	岩崎 智	H31 未来のチカラ提言ワークショップ参加者	地産地消
7	フリーランス（翻訳）		エマ パーカー		子育て
8	有限会社 二葉デンキ商会	代表取締役	加藤 康太郎	R2 リノベーションスクールローカルユニットマスター、H31 未来のチカラ提言ワークショップ参加者	子育て
9	EKIKITA WORKS	幹事長	木島 嵩善	市民会議委員	子育て
10	B A S E 9 6 8	取締役	小出 薫	市民会議委員、H30 スクール参加者	高齢者元気
11	加賀の井酒造株式会社	第 18 代蔵元	小林 大祐	市民会議委員	地産地消
12	おもちゃや木のこ	代表	齊藤 里沙	市民会議委員	子育て
13	株式会社お米の配達人	代表	園田 岳彦		地産地消
14	まちづくりらぼ	副代表	野村 祐太	市民会議委員	子育て・地産地消
15	リノベーションスクール@いといがわ	企画者	藤岡 あかね	H30 スクール参加者	地産地消
16	EKIKITA WORKS	代表	本間 寛道	市民会議委員	子育て
17	リノベーションスクール@いといがわ	企画者	松木 美沙子	市民会議委員、H30 スクール参加者	子育て
18	室川印刷		室川 亜紀	市民会議委員、個店の魅力アップ女性の会前アドバイザー	高齢者元気
19	株式会社 清耕園ファーム		横井 藍		地産地消
20	駅北まちづくり会議 実践会議	座長	西村 浩	外部アドバイザー	



糸魚川市 駅北まちづくり戦略

目 次



1. 駅北まちづくり戦略について 1-3

- ① 駅北まちづくり戦略とは 1
- ② 戦略の位置づけ 2
- ③ 戦略の対象区域 3
- ④ 駅北まちづくりと周辺地区との連携 3



2. 駅北地区の現状と課題 4-11

- ① 駅北地区の歴史 4
- ② 駅北地区の現状 5
- ③ 駅北地区の課題 11



3. 駅北地区が目指す姿 12-26

- ① 駅北地区が目指す姿 12
- ② 取り組みの方向と活動 13
 - 1) まちぐるみで子どもを見守り、育てよう 14
 - 2) 糸魚川にあるもので、豊かに暮らそう 18
 - 3) いつまでも、ぴんぴん にっこり暮らそう 23
 - 4) 取り組みの連携とその他の駅北地区での活動とのつながり 26



4. ○○○○○○○な暮らしの風景 27

- ① ○○○○○○○な暮らしの風景 27



5. △△△△△△△実現に向けて 28-□

- ① 駅北まちづくりの展開 28
 - ② 持続可能なまちづくりの基本的手段 □
 - ③ 駅北まちづくりの活動フィールド □
 - 4 推進体制等
-



1. 駅北まちづくり戦略について

1 駅北まちづくり戦略とは

平成 28 年 12 月 22 日に発生した糸魚川市駅北大火により、中心市街地の住宅や店舗はもとより、かつて宿場町として栄えてきた歴史を物語る雁木のある街並みなど、多くの文化的資源が失われました。

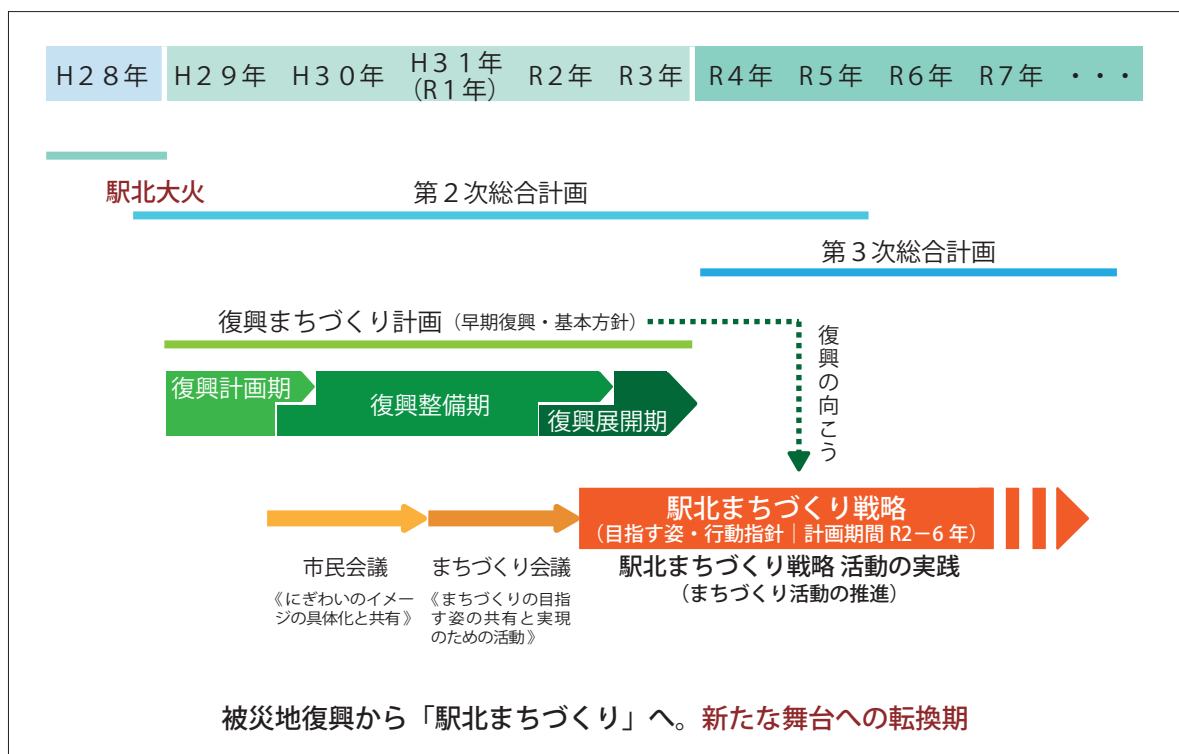
大火後、駅北地区では、暮らしや事業の一日も早い再建を目指し、「カタイ絆でよみがえる 笑顔の街道 糸魚川」を合言葉に、「糸魚川市駅北復興まちづくり計画（平成 29 年 8 月策定）」で示した復興まちづくりの考え方や基本方針に沿って、まちの再生に取り組んでいます。

大火から 4 年を迎えようとする現在、復興住宅や市民公園、駅北広場「キターレ」などこれからの復興まちづくりを支える都市基盤の多くが完成しています。

駅北地区の皆さんや事業を営む方々、そして市民ひとりひとりが『できることから始める』を実践することで新しい暮らし方、働き方を実現するため、『民間主導・行政併走』のまちづくりへと転換していきます。

駅北地区では大火以前より、高齢化や人口減少の影響で主体的に活動を担う人材不足などの課題を抱えており、活動を担う人材は、公共的な空間や被災を免れた周辺地域も含めた歴史や文化などの地域資源を生かしたまちづくり手法である『リノベーションまちづくり』の考え方によってその育成を目指していきます。

駅北まちづくり戦略は、復興の向こうを見据えたまちづくりに向けて、駅北地区の地域資源をあらためて見つめなおし、人とまちとのつながり、人と人とのつながりを再生していくための未来像を描き、その実現のための実践活動を示したものです。

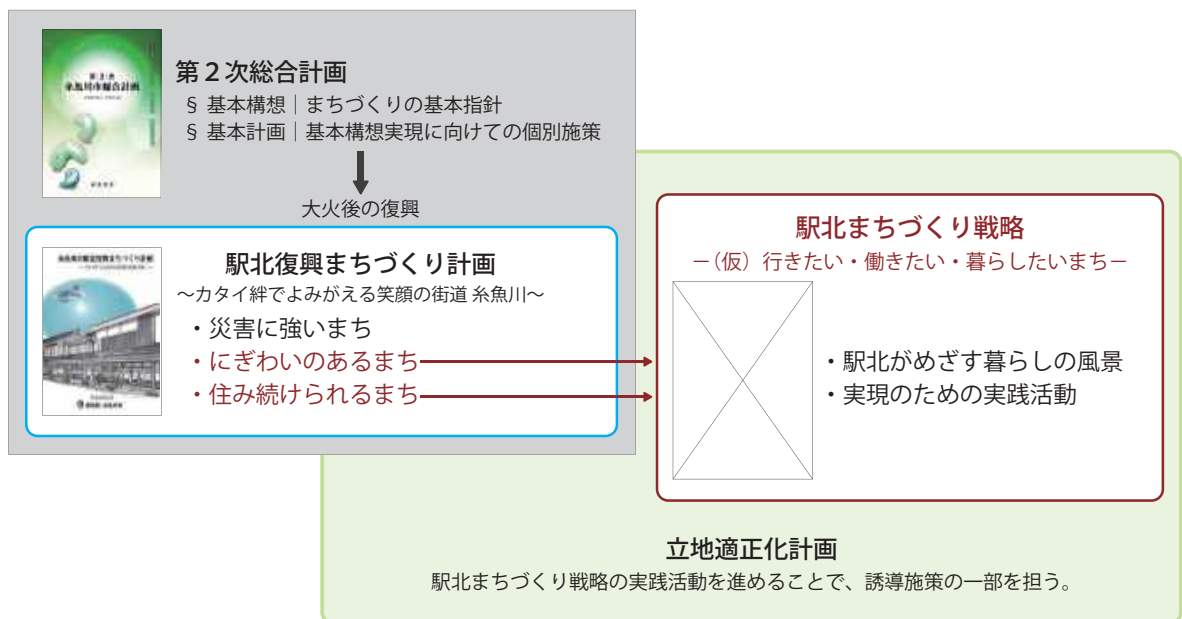




2 戦略の位置づけ

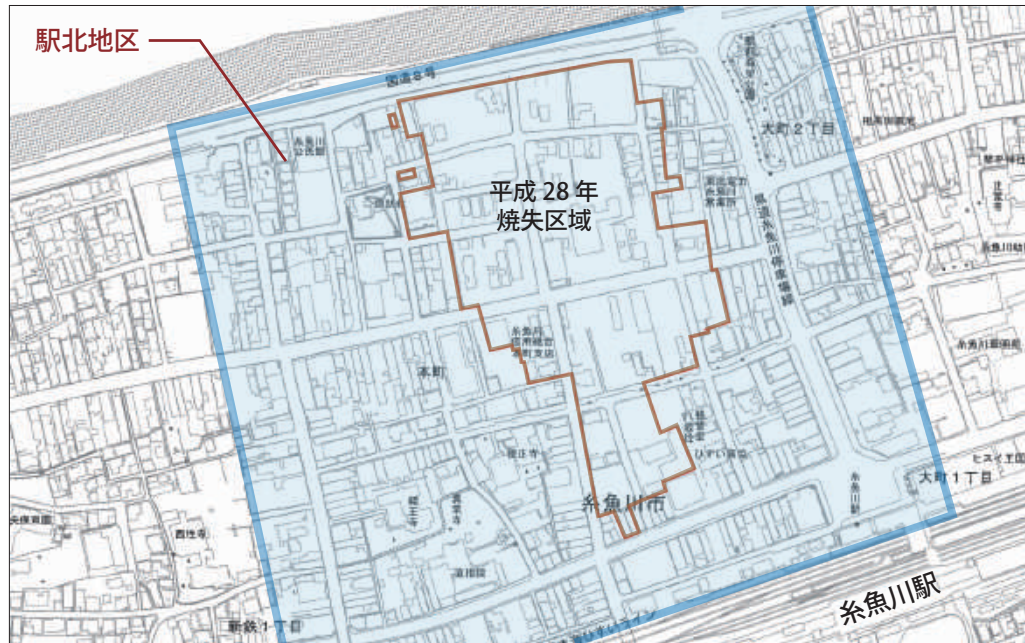
駅北まちづくり戦略は、糸魚川市駅北復興まちづくり計画における「にぎわいのあるまち」「住み続けられるまち」の実現に向けた方向性と実践活動を示すものであり、糸魚川市立地適正化計画における中長期的な都市機能や居住の誘導に資するものです。

なお、糸魚川市駅北復興まちづくり計画は、本市の最上位計画である第2次糸魚川市総合計画において、駅北大火復興特別編を編集しての整合性を図っています。



3 戦略の対象区域

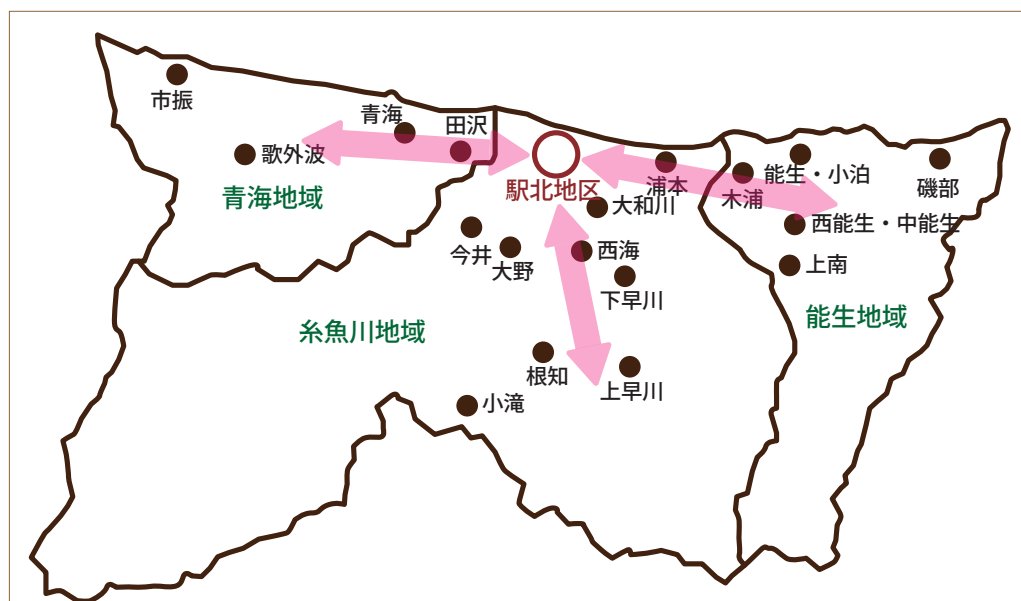
対象区域は、糸魚川市駅北復興まちづくり計画の計画区域である駅北地区とします。



4 駅北まちづくりと周辺地区との連携

戦略における実践活動は、駅北地区のまちづくりの実現につながることを基本としていますが、活動そのものの区域を制限するものではありません。アイデアや活動は、駅北地区以外の地区でも生かすことができるものです。

駅北地区での実践活動をモデルとして、他の地区で実践されている活動との情報共有や相互連携によって、人と人との交流も広がり、より大きな効果を発揮することができます。





2. 駅北地区の現状と課題

1 駅北地区の歴史

本市は、新潟県の西端に位置し、大火のあった駅北地区は古くから北国街道（加賀街道）と松本街道の宿場町として栄え、江戸時代には北前船の寄港する港町、また親藩である糸魚川藩1万石の陣屋町としての面もあわせもちました。

松本街道は別名「塩の道」とも呼ばれ、古くから、内陸の信濃（長野）へ塩や海産物等を運ぶ重要な道でした。現在も鉄道では北陸新幹線、えちごトキめき鉄道、JR大糸線が、道路では北陸自動車道、国道8号と国道148号が交差する交通の結節点です。

街道沿いの宿場町が原型となった商店街には、木造2階建て平入りの建物（道路に対して桁が平行）が連なり、雪国に特徴的な「雁木」が連なる町並みが形成されました。旧加賀街道の一部が現在の「本町通り」、旧松本街道の一部が現在の「白馬通り」です。

大正元年の糸魚川駅設置、戦後の高度経済成長期を経て、店舗等が集積し、駅北地区は市の顔として中心的機能を担ってきました。

■ 明治20(1887)年の糸魚川町



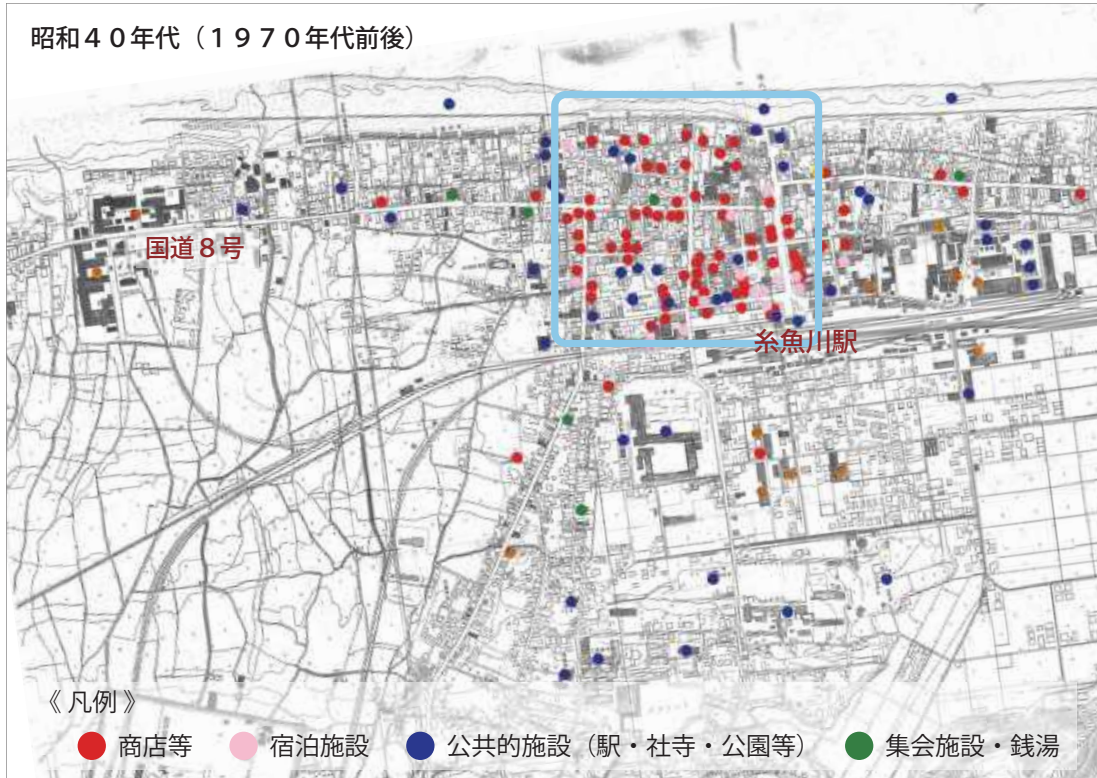
明治20年7月1日 西頸城郡役所発行「新潟県越後国西頸城郡実測図」を原図とし、昭和27年に糸魚川小学校教諭が作成した図

※明治10年大火後の町の様子がわかる。この17年後、明治37年の大火が発生する。

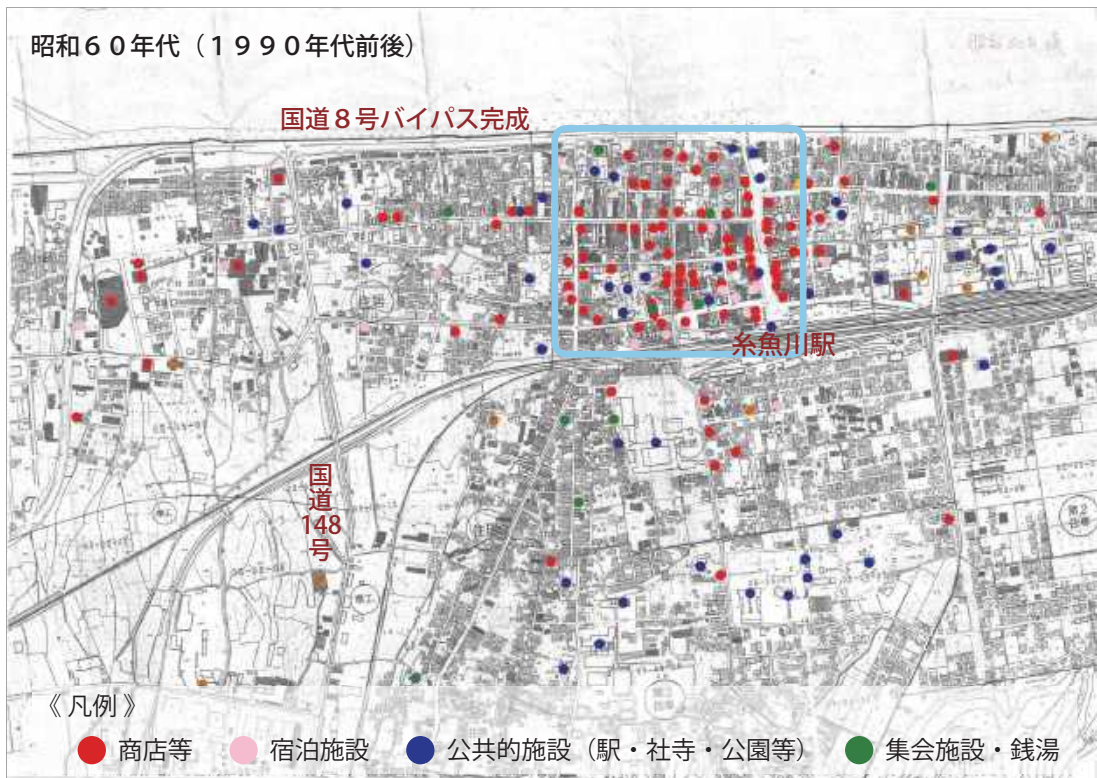


2 駅北地区の現状

【都市機能】



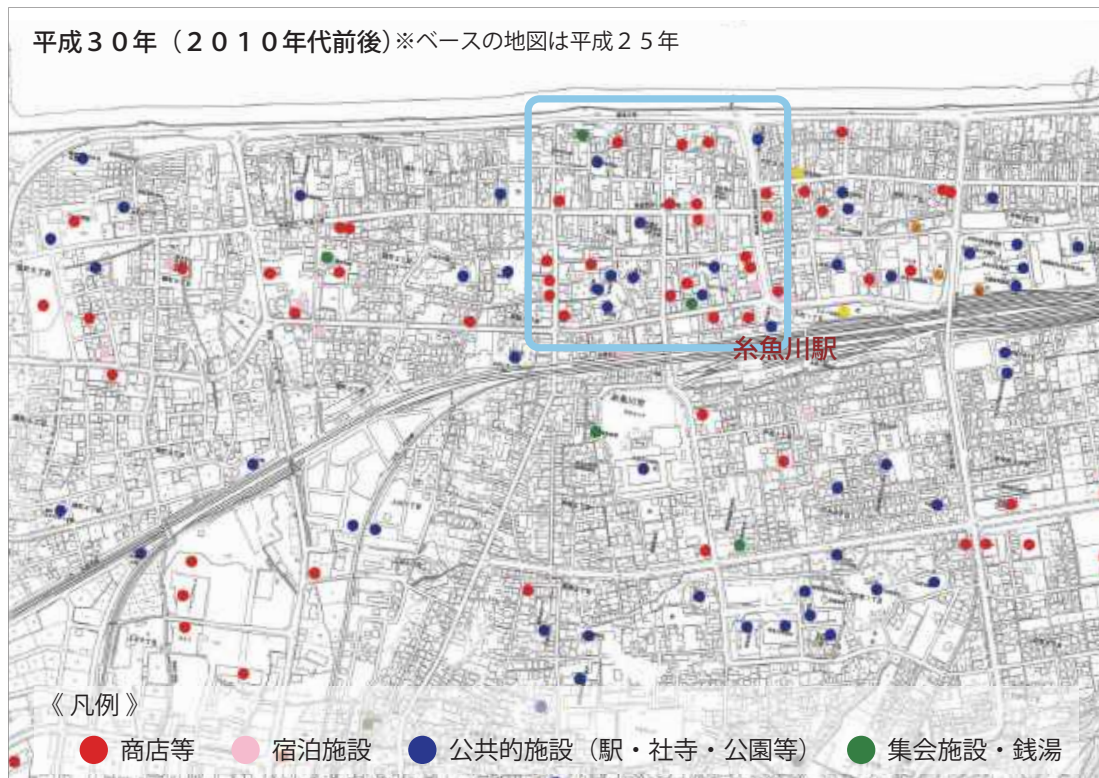
高度成長期を経て駅北地区に店舗等が集積



国道148号改修、国道8号糸魚川バイパス、市道奴奈川線跨線橋開通。
車社会が進むとともに郊外の都市化が進む。



2. 駅北地区の現状と課題



郊外の道路交通網（中央大通り線等）の整備が進み、郊外に商店等が点在するとともに住宅地の広がりも進む。

昭和40年代から60年代にかけて全国の都市が発展拡大するなか、本市においても、駅北地区から郊外に向かって都市が拡大してきた様子がわかります。

宅地の拡大に伴い、市民の暮らしを支える商店や公共的施設、集会施設等も広範囲に点在するようになり、駅北地区に集積していた施設の立地状況は約50年の間に一変しています。

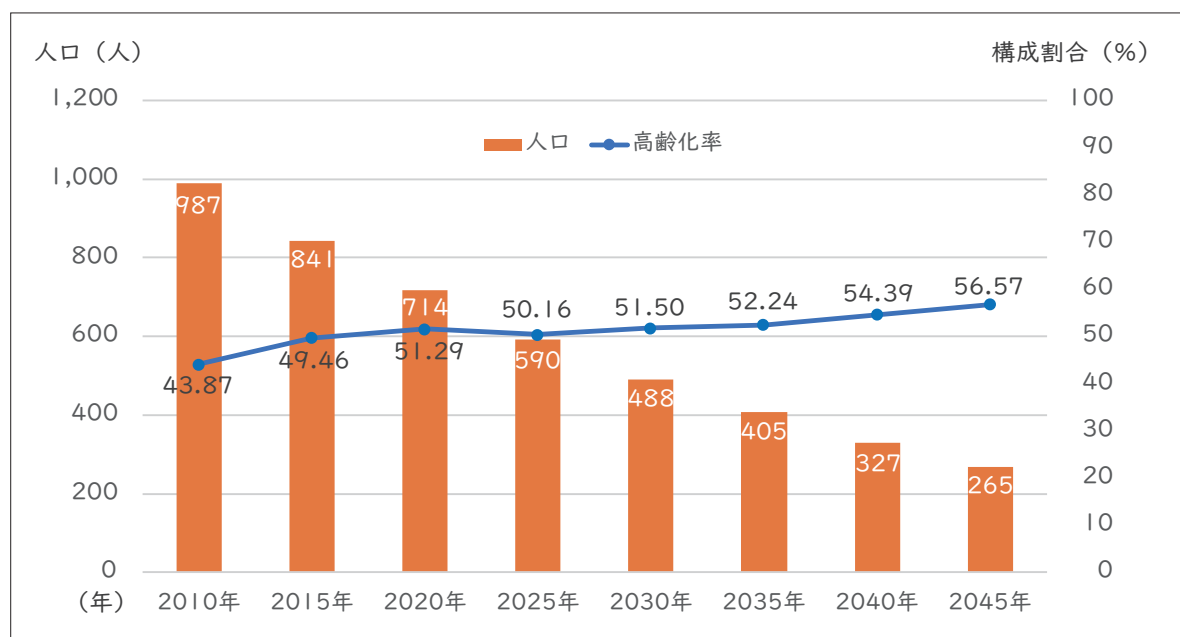
また、平成28年の駅北大火によって、焼失した商店等の約4割が被災地内で再建しましたが、大火以前より駅北地区には空き家や空き店舗、空きビルが目立つ状況にありました。



【人口の推移】

全国的に人口減少、少子高齢化が進行するなか、市の玄関口であり中心的機能を担ってきた駅北地区は、鉄道、バスなどの公共交通等の利便性が高く、社会基盤も整備されており、居住や商業等の立地には適した環境にあります。しかしながら、駅北大火による被災前においても65歳以上の高齢者の割合が約50%に達するなど、若者や子育て世代が少なく、高齢化率は市全体の平均値を上回る状況です。この傾向が続くと、地域コミュニティの活動低下、身近な店舗の縮小などが懸念されます。

■ 駅北地区（大町・本町・新鉄1丁目）の人口推移と予測



出典 | 「国勢調査(総務省 統計局)」2010－2015コーホート変化率により推計
国立社会保障・人口問題研究所「市区町村別将来推計人口」

■ 駅北地区（大町・本町・新鉄1丁目）の高齢化率

	人 口	65歳以上	高齢化率
大町	480	250	52.08%
本町	278	123	44.24%
新鉄1丁目	83	43	51.81%
計	841	416	49.46%

資料 | 平成27年(2015)国勢調査(総務省 統計局)をもとに作成



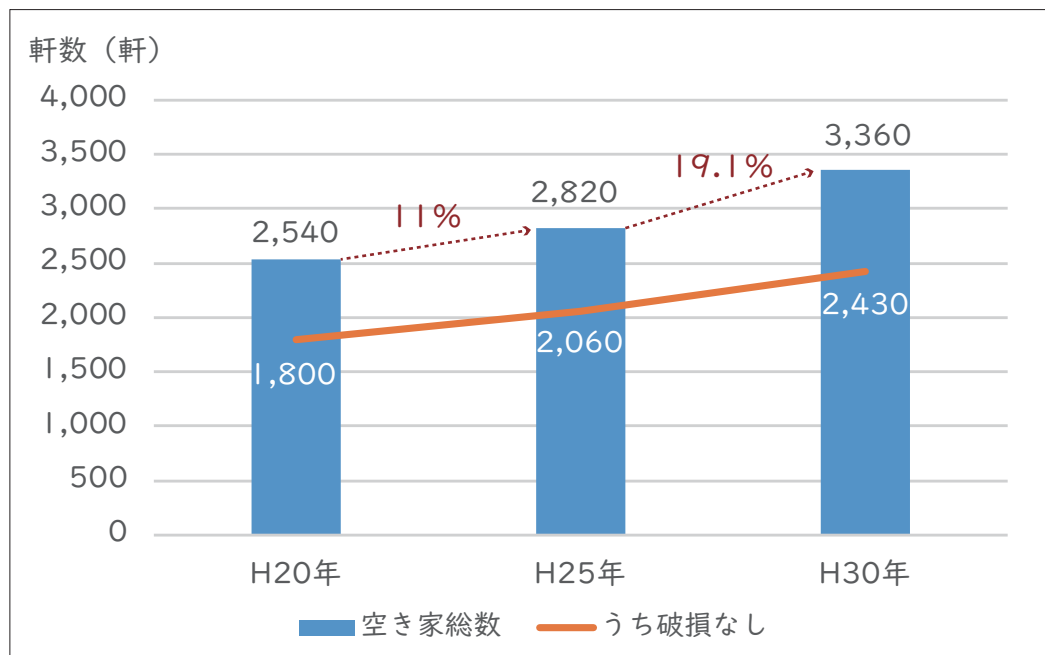
【空き家の増加】

本市の空き家数は年々増加しており、平成 20 年からの 10 年間で 820 戸増え、増加率も約 11%から約 19%にあがっています。また、平成 27 年に市が実施した空き家実態調査では、糸魚川地域の用途地域内の約 6 割が糸魚川駅より半径 800mの範囲内に集中しています。

廃業や郊外への店舗出店などにより、空き家や空き店舗も増加しており、空洞化による商店街を中心とした駅北地区全体の魅力や活力の低下が課題となっています。この傾向が続くと、駅北地区の商業機能のさらなる衰退などが懸念されることから、これらに歯止めをかける取り組みが必要です。

■ 市内全域の空き家の推移

用途地域内の空き家の分布状況は、糸魚川駅より半径 800mの範囲内に糸魚川地域内の約 6 割が集中しており、中心市街地の空洞化の進行と更なる空き家の増加が懸念されます。



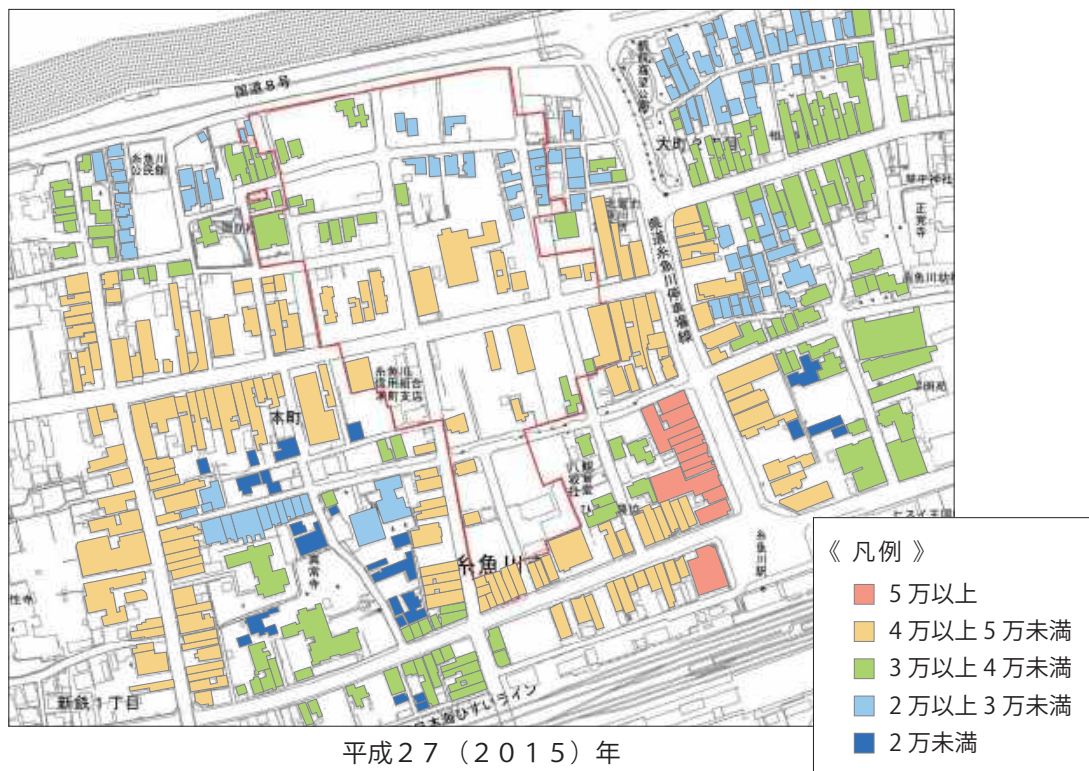
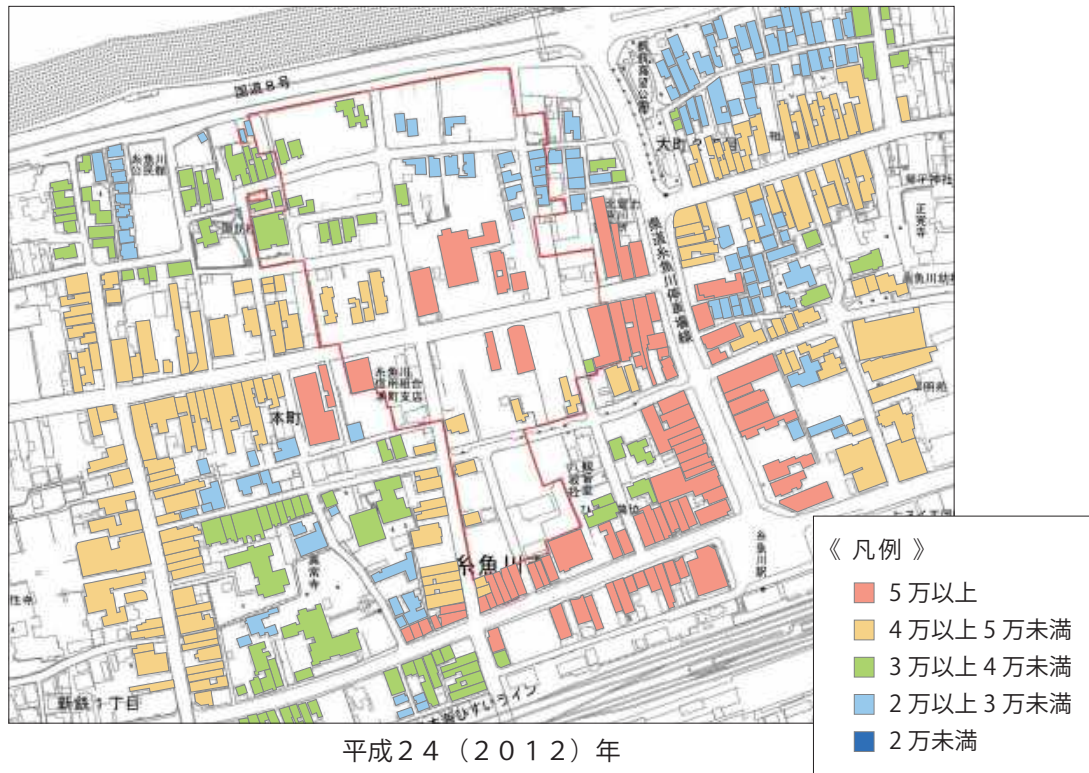
資料 | 住宅・土地統計調査(総務省 統計局)をもとに作成



【地価の推移】

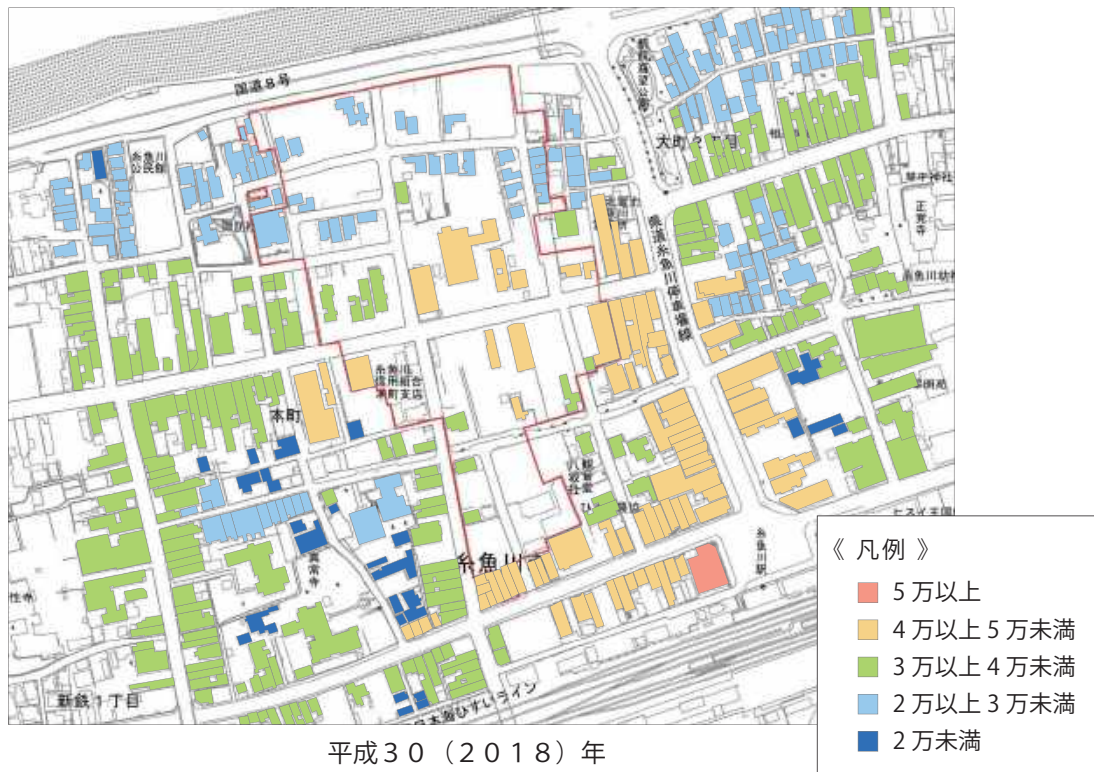
■ 駅北地区の地価（路線価）の推移

出典 | 路線価図・評価倍率表（国税庁）をもとに作成



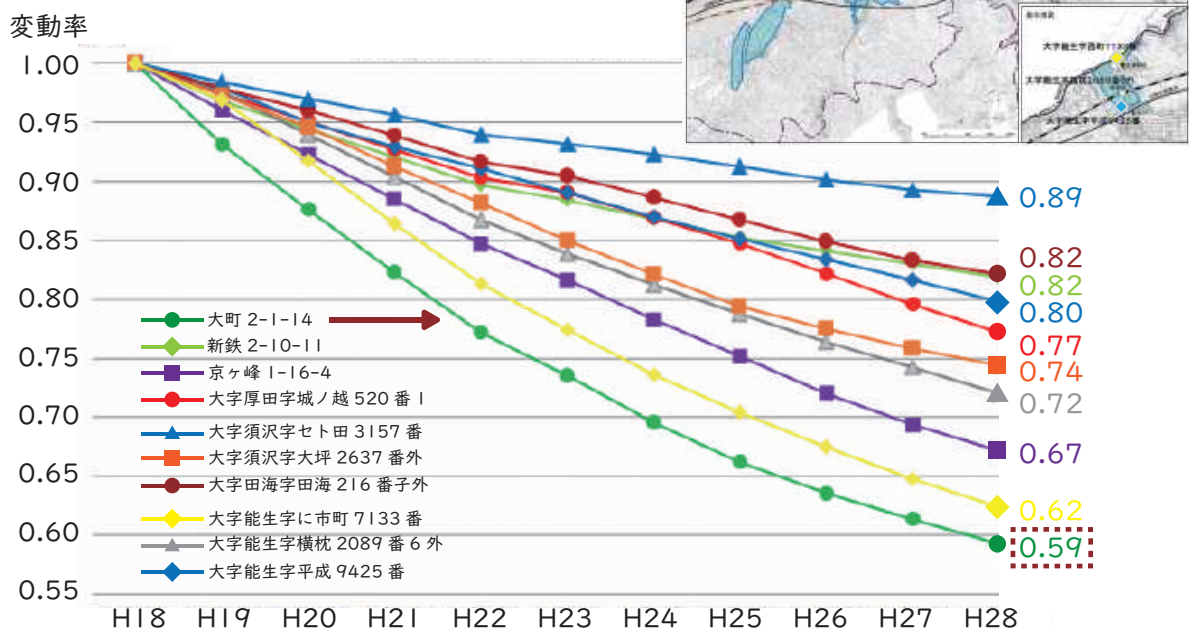


2. 駅北地区の現状と課題



■ 地点別の公示地価の推移

出典 | 国土数値情報(国土交通省)をもとに作成



地価は年々下落しており、駅北地区内は市内他地区よりも大きく落ち込んでいます。中心市街地に対するニーズの低下が顕著になっていることがわかります。



3 駅北地区の課題

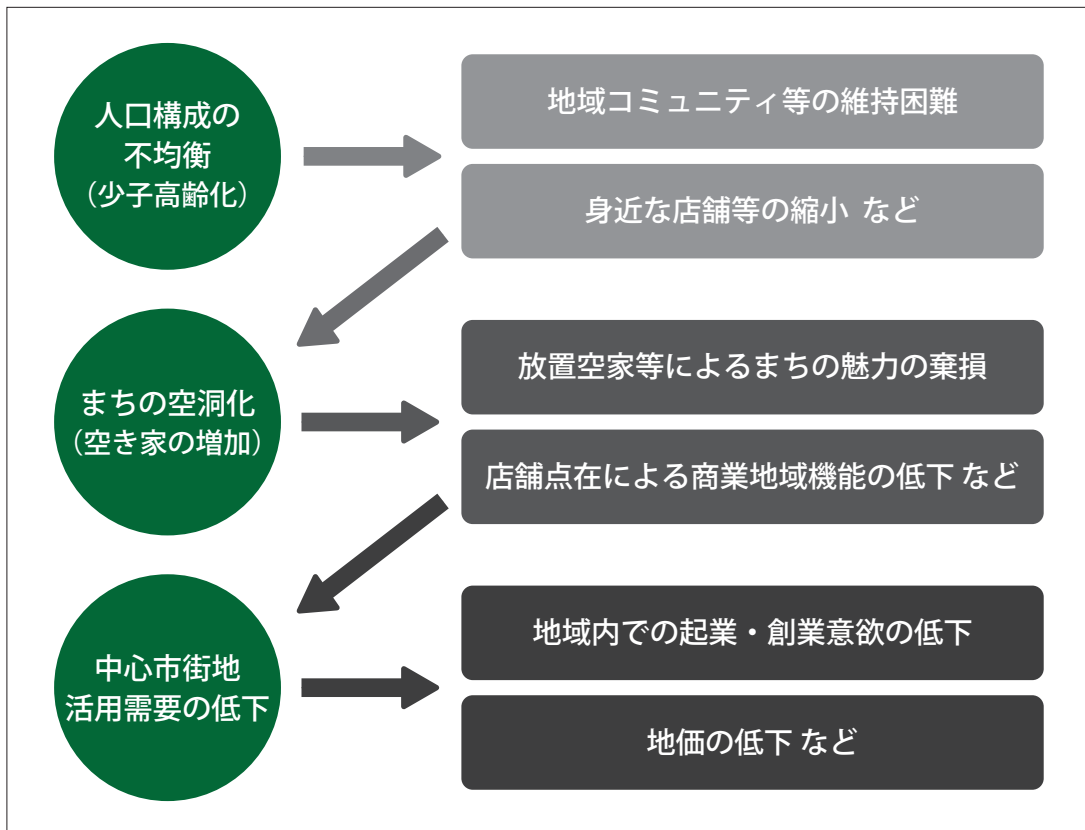
駅北地区の高齢化率は、市全体の平均値を上回り、人口構成が偏っている現状が見受けられます。この不均衡な状況が続くと地域コミュニティ等の維持困難（運営費、役員人材の不足等）や身近な店舗等の縮小等、様々な影響が発生すると考えられます。

このようななか、市内の空き家等は増加しており、このまま増加していくと、まちの空洞化が進み、まちの魅力と活力を低下させる要因となります。

これを背景に駅北地区の活用需要の低下が顕著になっており、地価は市内で最も高い減少率になっています。

本市の玄関口として公共交通の利便性にも長けている駅北地区の主な課題としては、人口構成の不均衡、中心市街地に対する活用需要の低下があげられ、これらの変化に柔軟に対応できる持続的な取り組みを進める必要があります。

■ 課題の関係性





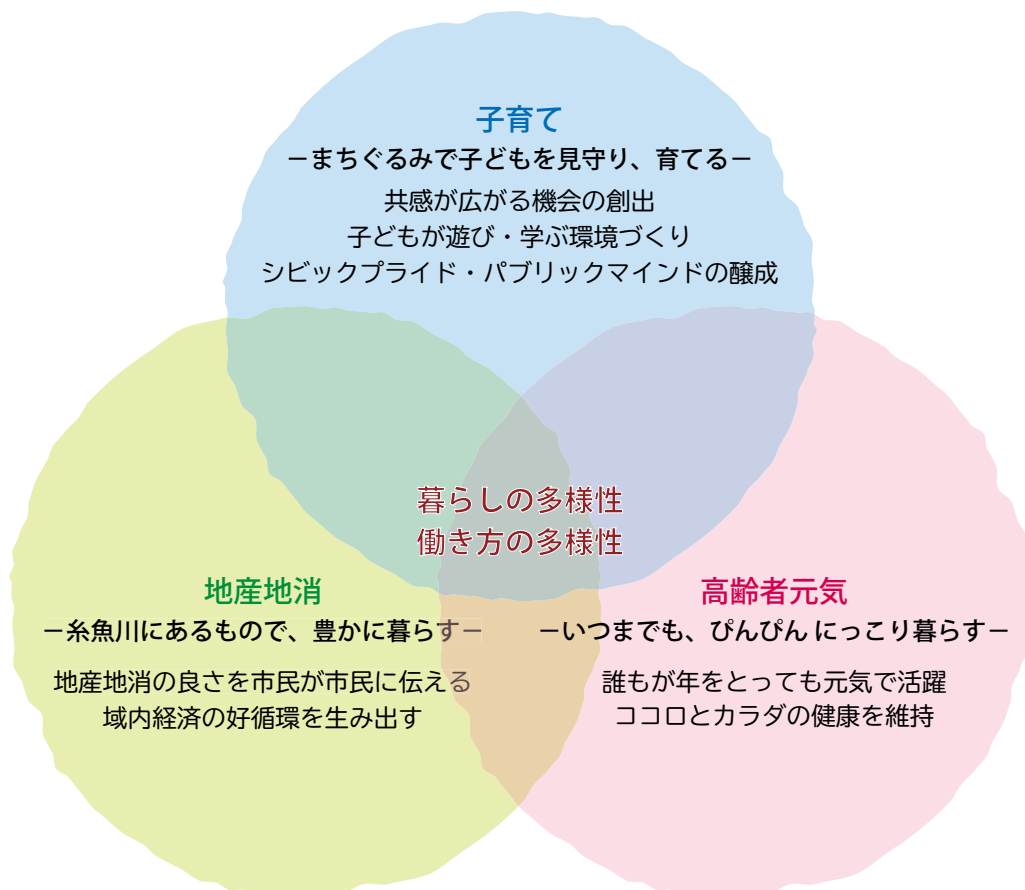
3. 駅北地区が目指す姿

1 駅北地区が目指す姿



駅北地区は、多世代が元気に暮らし続けられる環境を作り、中心市街地としての活用需要を高めていく必要があります。

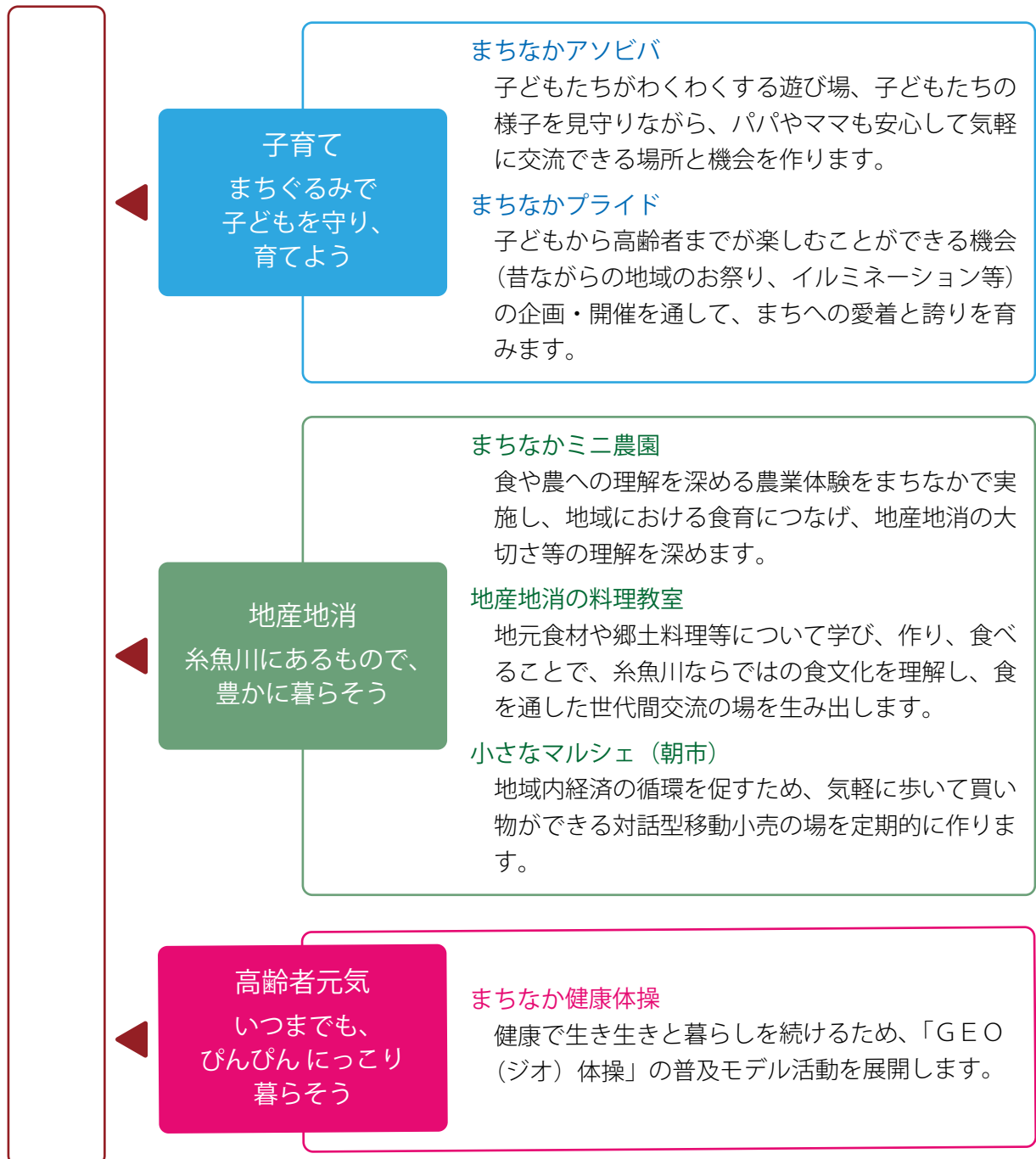
多世代が暮らし続けるための環境づくりや、新たな活動や事業等の推進による魅力の向上を図るため、3つのテーマ（子育て、地産地消、高齢者元気）を設定して活動を進めていきます。





2 取り組みの方向と活動

3つのテーマごとに、その取組の方向と活動を定めて進めていきます。





1) まちぐるみで子どもを見守り、育てよう

時代の変化によって、家庭と仕事を両立することの難しさに加え、核家族化や都市化の進行等によって、地域における相互助け合いが難しい環境にあります。かつては家族や近隣から得られていた知恵や支援が得られにくいことで育児に孤独を感じている子育て世代も少なくはありません。駅北地区には商店街があったこともあり、まちの大人たちも子どもを見守りやすい環境があります。そうした不安を低減し、地域で子どもを見守る環境や関係性を取り戻し、安心して子どもを育て、そうして育った子どもたちもまた、まちへの愛着と誇りを感じられるような環境づくりを進めます。

子どもの成長に応じた「遊び」と「学び」の場づくりと活動を展開



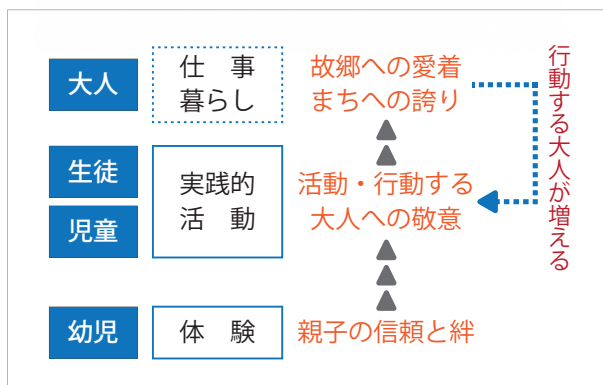
共感が広がる機会の創出

子育ての孤独感を解消



子どもが遊び・学ぶ環境

子どもがワクワクする場づくり

シビックプライド・
パブリックマインドの醸成次代のまちを担う子どもの自立心・
自律心を育む

※「シビックプライド」 シビックプライド (Civic Pride) とは、「都市に対する市民の誇り」という概念で使われることが多い。「郷土愛」といった言葉と似ているが、単に地域に対する愛着を示すだけではなく、「シビック (市民の／都市の)」には、権利と義務を持って活動する主体としての市民性という意味があり、シビックプライドは、自分自身が関わって地域を良くしていこうとする、当事者意識に基づく自負心を指す。(『シビックプライドー都市のコミュニケーションをデザインする』宣伝会議刊)

※「パブリックマインド」 皆の役に立とうとする公共の精神



ACTION

1



まちなかアソビバ

子育て
教育・交流
共感の広がり
あそびの環境

子どもたちがわくわくする遊び場、子どもたちの様子を見守りながら、パパやママも安心して気軽に交流できる場所と機会を作ります。

子どもは、遊びを通してたくさんのことを学びます。子どもたちの「やりたい」「こうしたらもっと楽しい」という好奇心を引き出しながら、協調性やコミュニケーション力を育ていける遊び場づくりを目指しています。

photo

おもちゃ木のこ

photo

BASE968

map



- ★ 対 象 | 幼児・未就学児と子育て中のパパやママ、おじいちゃん・おばあちゃん
- ★ 内 容 | まちなかで、ピクニック気分学ぶ「エキキタピクニック」
まちなかのお店散策やはじめてのおつかい体験
子育て中のパパやママもほっとできる場づくり など
- ★ 目 標 | 子どもたちが夢中になるあそび体験ができる環境づくり
- ★ 展 開 | 地域ごとの風土や文化など、個性のあるあそび場が各所にできる



ACTION

2

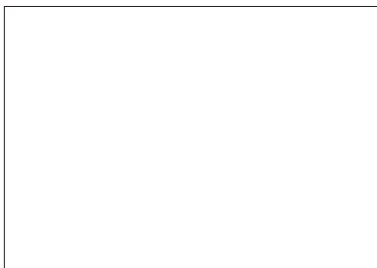
まちなかプライド

教育・交流
愛着・誇り
高齢者活躍
文化継承

子どもから高齢者までが楽しむことができる機会（昔ながらの地域のお祭り、イルミネーション等）の企画・開催を通して、まちへの愛着と誇りを育みます。

糸魚川では、昔から各地域で生業に携わりながら、地域ごとに独自の文化や風土を作り、受け継がれてきました。「お祭り」は、代々地域の子どものから高齢者まで、皆が集い、共に地域の文化を伝聞するなかで、まちぐるみで子どもたちの成長を見届ける、という一面もありました。現在では少子化・高齢化の進行によってそうした機会も減少し、世代間の交流も少なくなりつつあります。

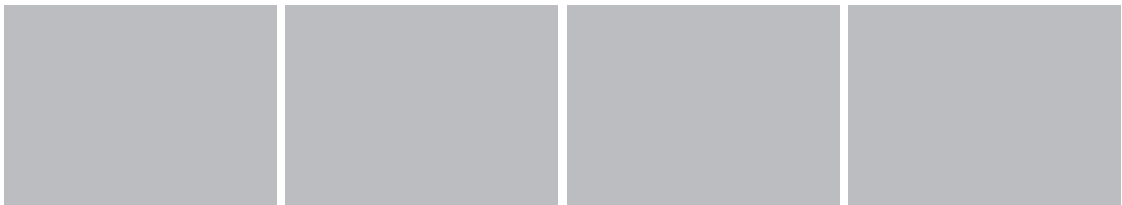
かつてのお祭りのような、地域の皆が集まる機会をつくるとともに、大人から子どもへ、伝えたい、残したい文化の伝聞や、地域の絆を深める場づくりを目指します。



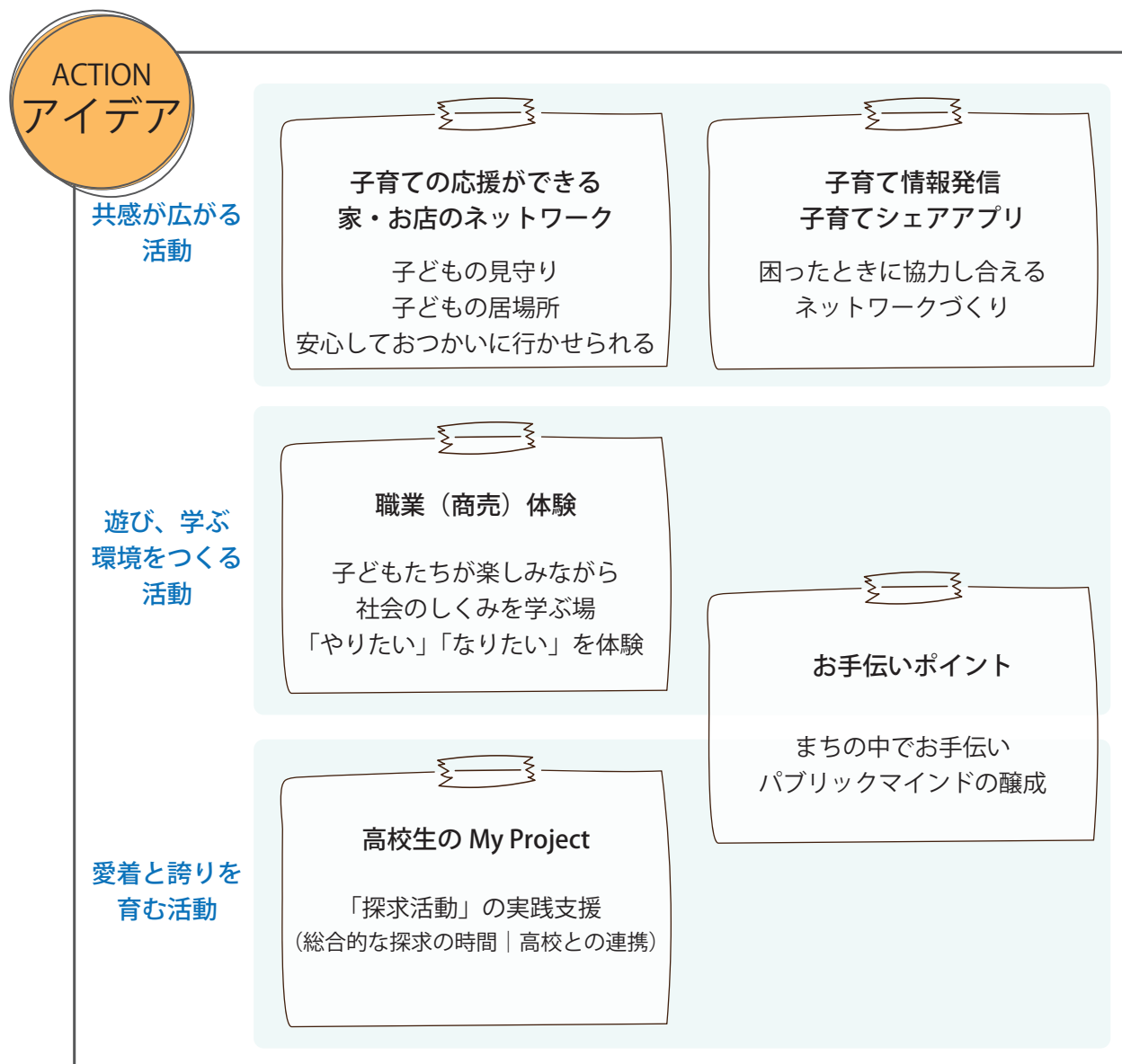
map



EKIKITA WORKS

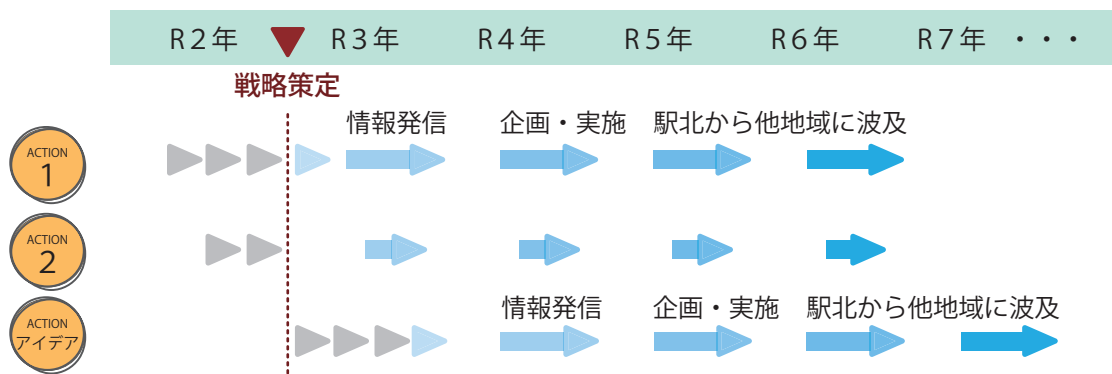


- ★ 対 象 | 子どもから高齢者まで地域住民の皆さん
- ★ 内 容 | 夏のお祭りの催し・冬のイルミネーションなど
- ★ 目 標 | 地域の子どものをまちぐるみで育てる地域内の体験を通しての世代間交流と担い手の育成
子どもたちの記憶に残る体験の機会を作り、まちへの愛着と誇りを育む。
- ★ 展 開 | 地域の子どものをまちぐるみで育てる糸魚川ならではの子育て文化づくり



※ACTION アイデアは、実践会議で提案のあった活動です。今すぐに活動を進めることができなかったものですが、将来的に今ある活動と連携、発展する可能性を秘めています。

ACTION の工程





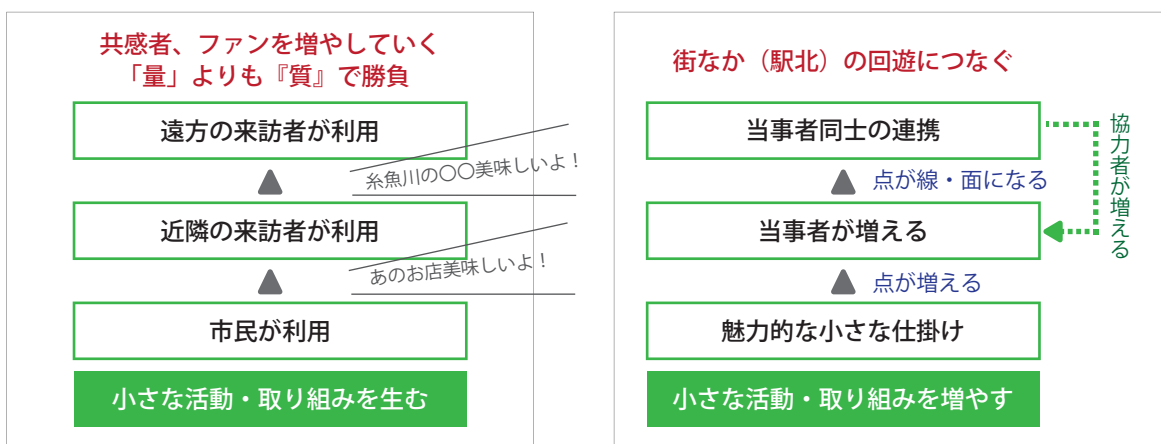
2) 糸魚川にあるもので、豊かに暮らそう

糸魚川には豊かな自然が育んだ地域資源が豊富にありますが、日々の暮らしに溶け込んだそれらの価値をあらためて見つめなおす機会は多くはありません。身近な「食」にテーマに絞り、生産者と消費者の距離を縮め、糸魚川にあるもの、つくられたものの価値を意識する輪を広げるために、『顔が見え、話ができる』環境で地域の地場産品を販売し購入する機会を作ります。

農業や漁業と関連産業の距離が近くなることで、心理的な距離も近くなり、市民の地元農産物・海産物への愛着心や安心感も深まります。

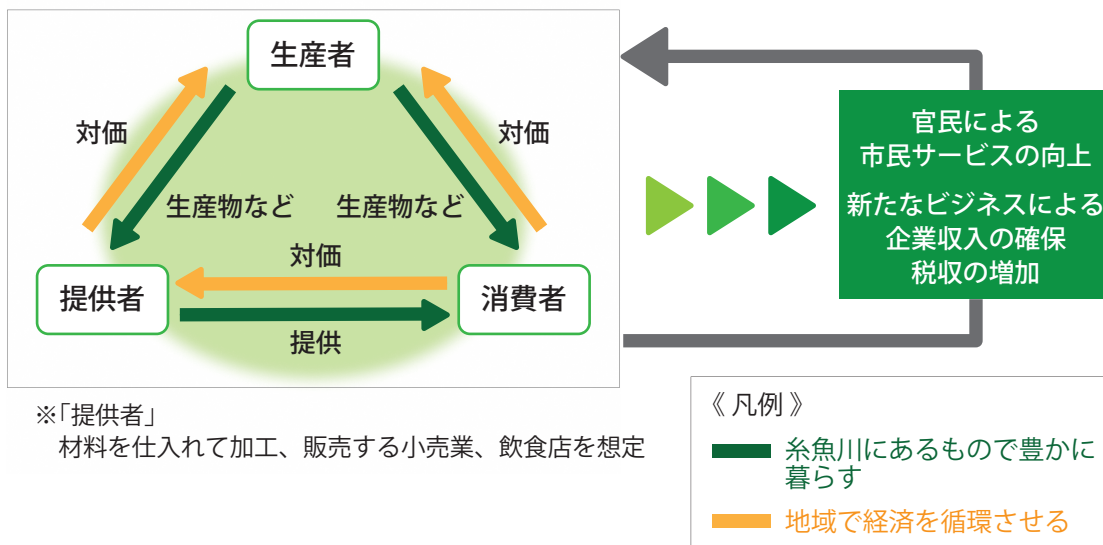
また、消費の中心である駅北地区から、地域内で経済の循環を生み出します。

地産地消の良さ（品質・安心）を市民が市民につたえ、域内経済の好循環を生み出す



地域内経済の循環イメージ

地域で経済を循環させる





ACTION

1



まちなかミニ農園

地産地消
教育・食育
交流
空地の利活用

まちなかにいても、市内の生産地をもっと身近に感じてもらい、地元で生産される農産物を地元で消費することの楽しさを体験する場を作ります。

農業体験を通じて食や農への理解を深める教育ファームの体験がまちなかですること、食育につなげ、多くの人々が、地産地消の大切さや、感謝の心、食品ロスを無くしていくことの大切さを理解することができるようになることを目指しています。

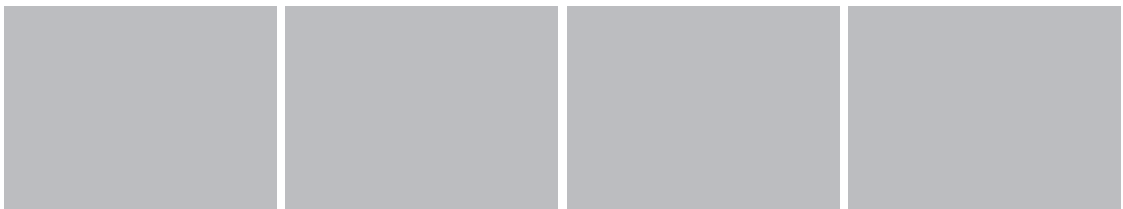
photo

photo

map

地産地消部会有志

生産者有志



- ★ 対 象 | 子どもから高齢者まで地域住民の皆さん
- ★ 内 容 | コンテナを使った野菜づくり「ハコニワ」を設置し、まちなかで農業体験ができる小さな農園づくり。収穫祭なども実施
点在于る遊休不動産（空地）の利活用にも寄与するとともに、生産者とのつながりもつくる。
- ★ 目 標 | 食文化の継承・健康に生きる知恵、環境の大切さ・食糧自給力について学ぶとともに、生産地とまちなかの人と人との交流をつくる。
- ★ 展 開 | 糸魚川産食材の積極的な消費や・生産地を訪れるアグリツーリズム事業が広がる。



ACTION
2

地産地消の料理教室

地産地消
域内経済循環
食文化継承
交流・広報

四季を感じる糸魚川産の食材をふんだんに使った料理の提供やレシピの紹介、料理教室を開催します。

地元の食材や特産品、郷土料理について学び、作り、食べることで、昔からある糸魚川ならではの食文化を理解し食を通した世代間交流の場の創出を目指します。

photo

生産者有志

photo

キッチン BASE968

map



- ★ 対 象 | 地元食材を使ったお料理に興味のある方
子育て中のパパやママ・若い世代
- ★ 内 容 | 季節の地元産食材を使った食事の提供
昔から糸魚川で食されてきた郷土料理等、生産者ならではの食材を活かした料理教室
生産者と消費者の食べることを通しての交流
- ★ 目 標 | 食文化の理解・地産地消による域内経済の循環促進
家庭での食を通した会話や食育の推進
- ★ 展 開 | 多様な糸魚川の「おいしい」をプロモート



ACTION
3



小さなマルシェ（朝市）

地産地消
域内経済循環
回遊促進
交流・広報

市内の農家で取れたお米や野菜などの農産物や海産物の干物など、糸魚川産の食材が購入できる小さな朝市を定期開催します。

地域住民の方々に気軽に歩いて買い物ができる場を提供するとともに、他の地域の方々にも出店者や来場者の立場でまちなかに足を運んでもらうことで、商店街にも波及し、回遊する人や出店者が増えていくことを目指しています。

photo

生産者・販売者

photo

駅北広場キターレ

map

- ★ 対 象 | 地域住民・商店街・市民
- ★ 内 容 | 糸魚川産の野菜・海産物などの地元産食材を販売するマルシェ
新鮮な旬の食材を知る・買う場づくり
生産者・販売者と消費者の交流の場づくり
- ★ 目 標 | 日常の暮らしの中に地産地消を取り入れるきっかけを作り、地域内経済の循環を促す。
まちなかへの来街目的づくりと回遊促進による商店街への効果の波及
- ★ 展 開 | 糸魚川の「新鮮」「おいしい」のプロモーション
市民が定期開催を待ち望み、多くの市民が回遊、出店するようプロモートする。

ACTION
アイデア

農業女子の持ち寄りマルシェ

農業に従事する女子が、それぞれの
生産物を持ち寄ってレシピつき
食材セットを販売

生産者と料理人をつなぐ
農産物・水産物商談会

作り手と創り手がつながる
食づくり交流

糸魚川の食材マップの制作

いつ・どこで・どんな食材が
手に入るのか、旬の情報を
まとめたマップ・アプリ制作

糸魚川版「食の嵐」

糸魚川産の食材を集めて料理人
にお店の看板になりうるイチオシの
料理を創作・提案コンテスト開催

「塩」で食材の魅力をアピール

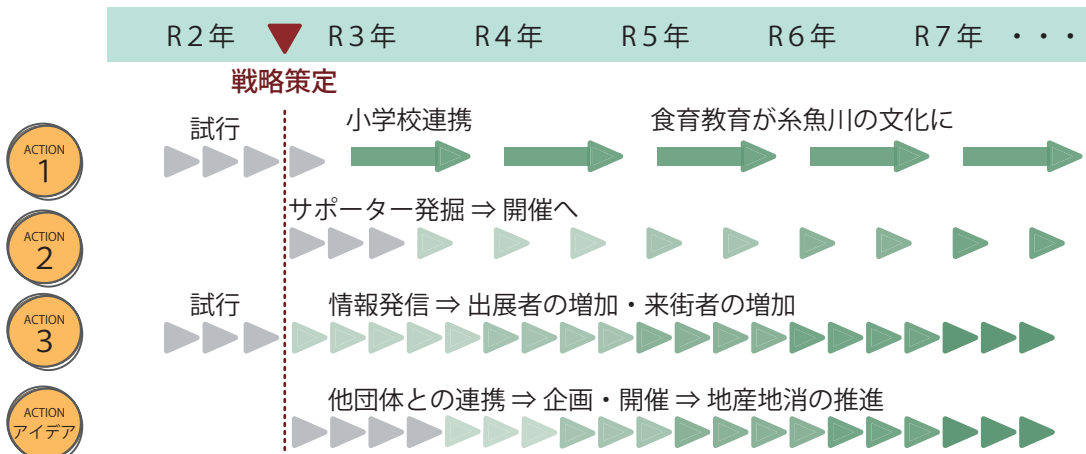
「塩の道」の歴史と
調味料として欠かせない「塩」
で食材そのものの魅力を発信

糸魚川ブランドを考える集い

地産地消を推進する団体等や
行政と連携・協力して糸魚川産
食材や酒のブランディングと
プロモーション

※ACTION アイデアは、実践会議で提案のあった活動です。今すぐに活動を進めることができなかったもの
ですが、将来的に今ある活動と連携、発展する可能性を秘めています。

ACTION の工程





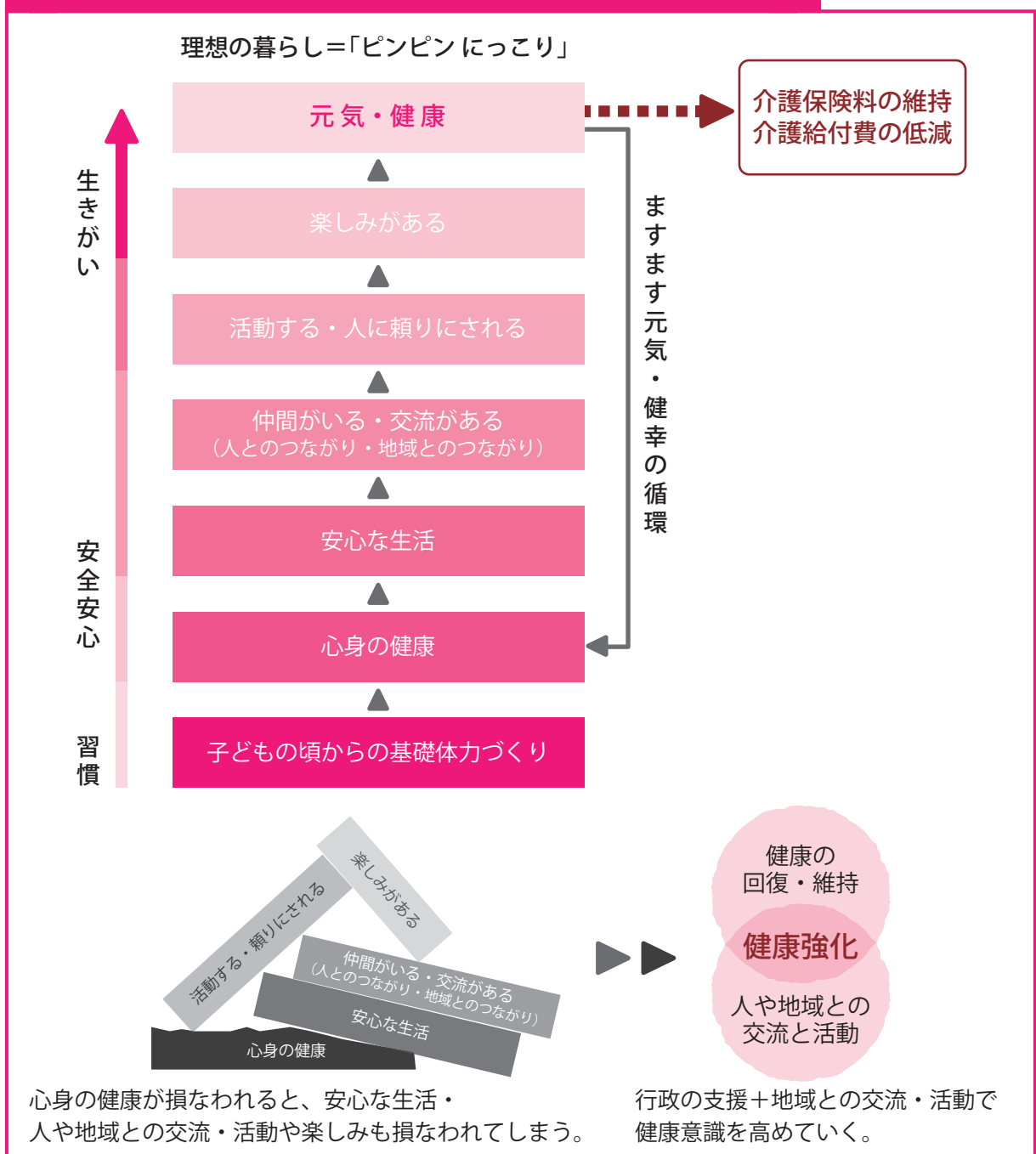
3) いつまでも、ぴんぴん にっこり暮らそう

高齢者がすこやかに、日々の暮らしの質を高めていくために何よりも大切なことは、心と身体が健康であることです。体力が衰えはじめると、活動量も減り、閉じこもりがちになってしまいます。

いつまでもいきいきと暮らしていくために、地域との接点を持ちながら健康づくりができる「身近な通いの場（機会）」を作ります。

この通いの場が相談の場、見守りの場、学びの場、住民同士の、また多世代の交流が生まれる場となり、生涯を通じて健康に暮らすまちにしていきます。

人とつながり、地域とのつながりの中で、やりがいと生きがいをつくる





ACTION



まちなか健康運動

健康維持
健康増進
交流

健康でいきいきと暮らしを続けるため、「GEO（ジオ）体操」の普及モデル活動を展開し、併せて、介護保険料等の維持・低減を図ります。

継続的に体操することで筋力の衰えを防ぎ、筋力低下等を原因とする介護の予防によって、いくつになっても元気な暮らしを維持するための基礎となる心身の健康を保ち、「ピンピンにっこり」暮らす高齢者を増やしていくことを目指します。

いくつになっても元気な暮らしを続けるには、高齢者だけでなく、子どもの頃からの運動習慣を意識づけることも大切です。すべての世代が健康なカラダを作り、基礎的な運動能力を養おうとする機運の醸成を図ります。

photo

photo

map

地域包括支援センター

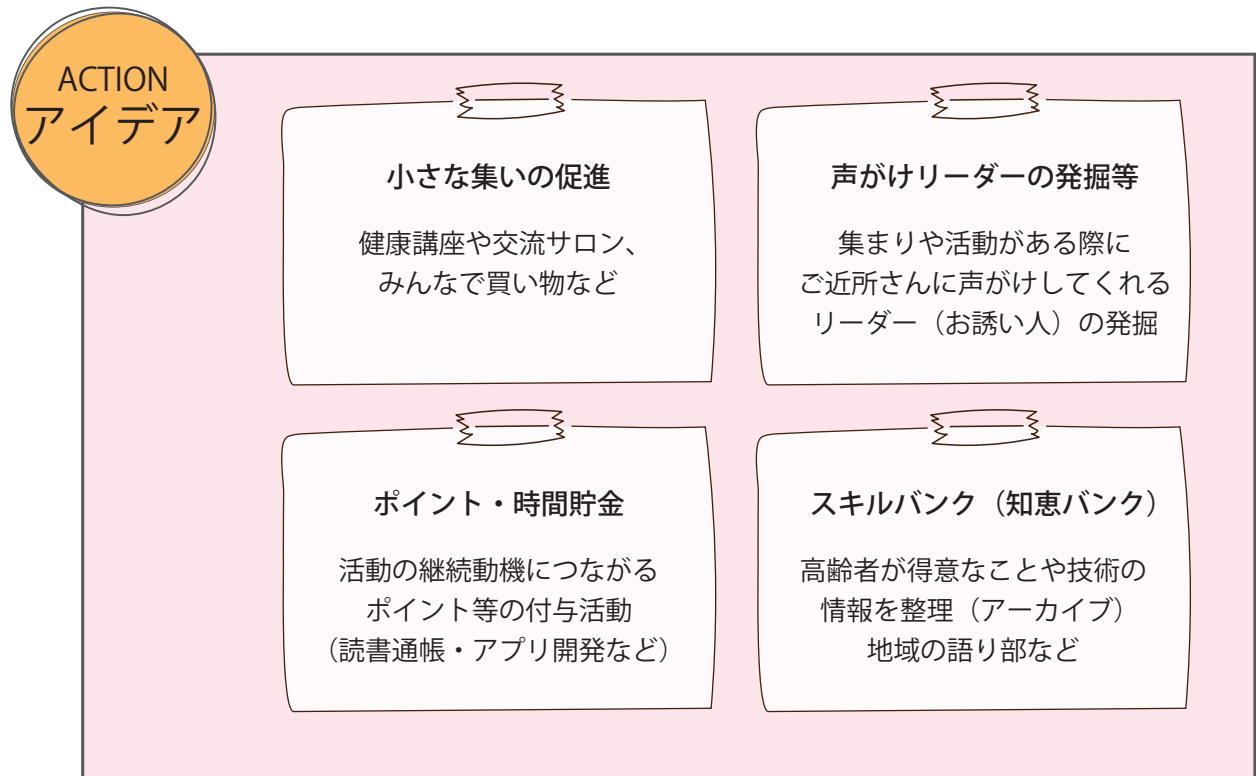
駅北広場キターレ

★ 対 象 | 地域住民の皆さん

★ 内 容 | GEO（ジオ）体操教室の定期開催

★ 目 標 | 高齢者の体操習慣化を支援することで、心身ともに健やかな暮らし、介護給付費の低減を図る。

★ 展 開 | 運動習慣の意識付けを図り、市内各地区に活動が広がる。



※ACTION アイデアは、実践会議で提案のあった活動です。今すぐに活動を進めることができなかったものですが、将来的に今ある活動と連携、発展する可能性を秘めています。

ACTION の工程

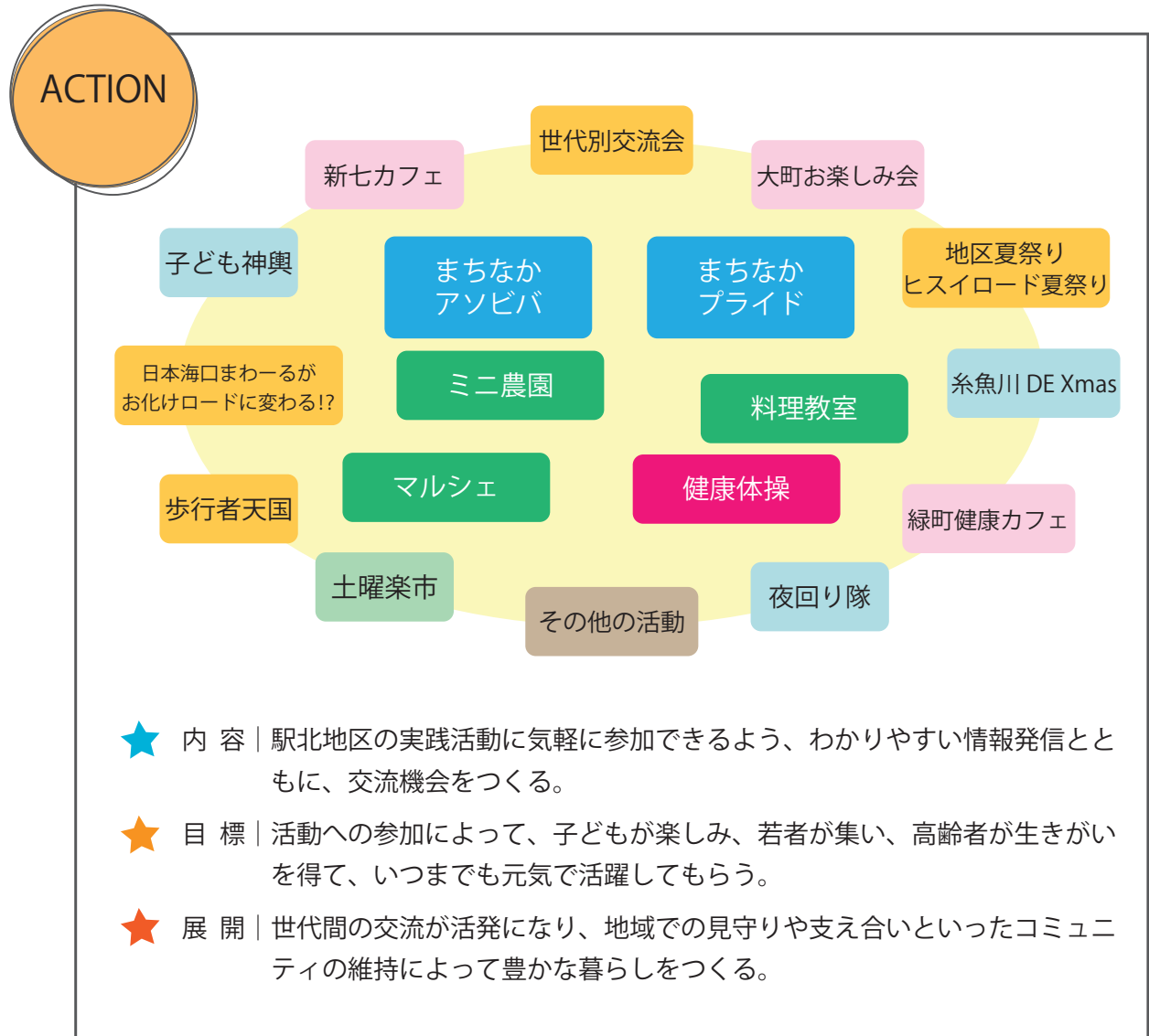




4) 取り組みの連携とその他駅北地区での活動とのつながり

多くの市民が実践活動への参加を通して心の豊かさや生きがいを得て、自身の健康にもつながるよう、人と人との交流や活動参加のきっかけを作っていきます。

また、地域で行われている既存の活動との連携を図り、まちの魅力を高めていきます。



実践活動等の推進にあたっては、その特徴を意識し、新型コロナウイルス等にも対応しながら進める必要があります。

これまでの民間によるまちづくり活動は、イベント等の一時的な活動が主体となっていました。また、まちづくり活動を進めるにあたって大切なところは、活動自体が「持続的」であることです。そのためには、活動の特徴もイベント等とは異なる意識を持つことが大切です。

■活動の特徴など

	一時的な活動	持続的な活動
特徴	非日常	日常的
目的	集客、盛り上がり	生活様式の実現
主体	公共性の高い組織	民間主体
資金	公的支援（補助金）	民間「事業」中心
評価軸	来場者の満足度	運営体制、仕組み構築（事業性、運営者満足）

活動の特徴を意識。

■新型コロナウイルス等への対応

にぎわいの定義（市民会議）

- ①市内から市外から、目的を持って街に人が集う
- ②糸魚川に魅力を感じた人たちが、たくさん訪れている
- ③駅に降り立った人たちが、街中を回遊している
- ④住民同士の結ぶつきが強く、たとえ一人でいても寂しくない
- ⑤街の環境整備が行われ、利用されている

まとめると

- ・市内外の人がまちの魅力にひかれ、訪れて、街なかを回遊。
- ・住民同士のむすびつきが強く、市民性が醸成されている。

3つの密を誘発する状況はない。

活動の特徴を意識し、変化に柔軟に対応しながら活動を進めていく。

にぎわいの拠点施設の方向性について

〇にぎわいの拠点施設の方向性を定める視点

戦略の推進にあたっては、新しい公共空間や駅北地区の地域資源を活用して、小さくても一つひとつの活動を重ねていくことが大切です。また、にぎわいの拠点施設は、復興住宅や駅北広場など既に供用され活動が始まっている施設との連携や機能分担も必要です。

このことから、復興まちづくり計画における「にぎわいの拠点施設」は、次の3つの視点により方向性を定めます。

【3つの視点】

- ①駅北地区の状況等を踏まえたまちの機能強化
- ②駅北まちづくり戦略における実践活動の推進と連携の促進
- ③市内の行政課題への対応

...

...

...

子育て支援
機能の強化

複数分散型
まちづくり

〇3つの視点の基本的な考え方

複数分散型
まちづくり

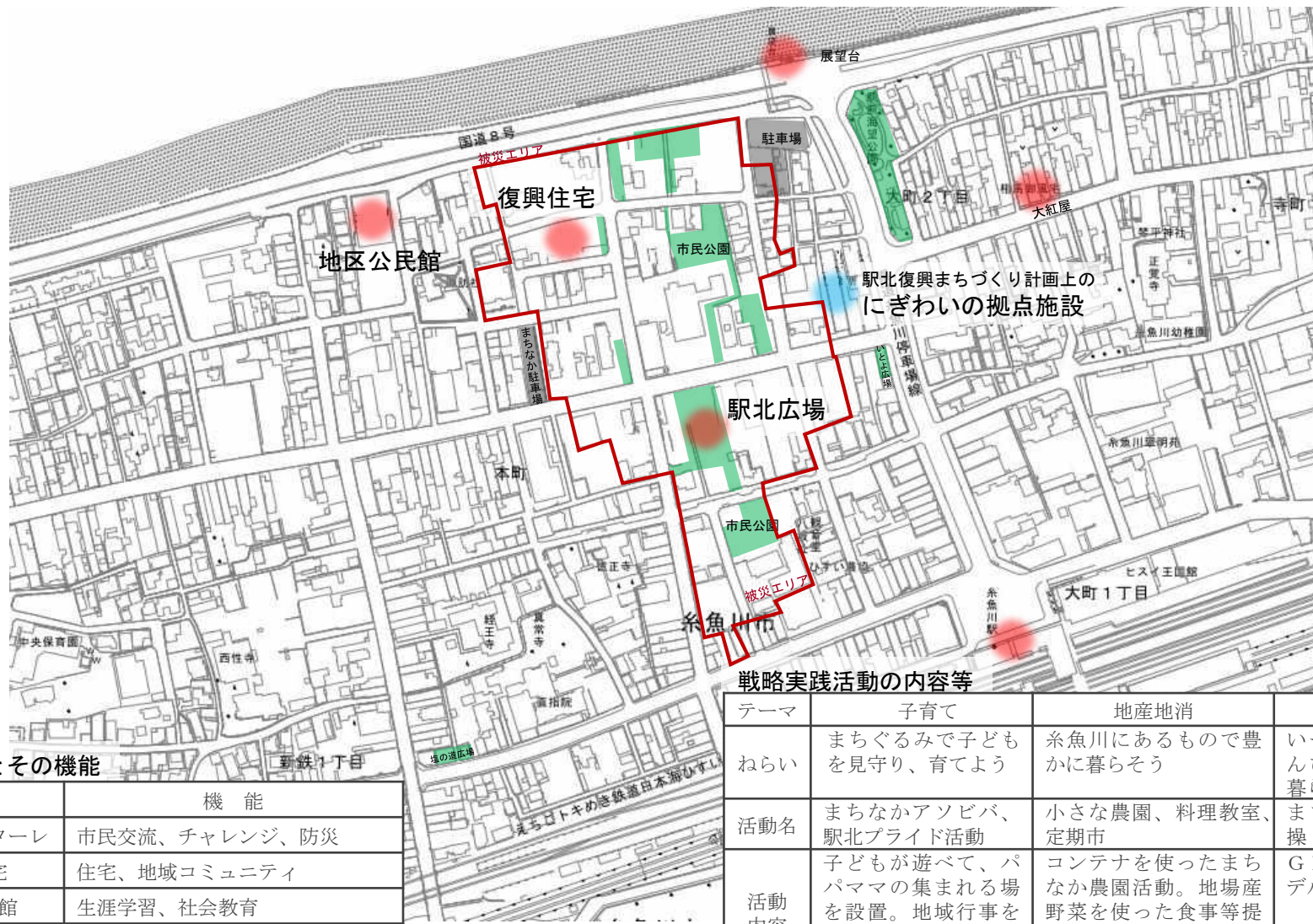
- ・①と②について、駅北まちづくり戦略の実践活動と他施設機能の連携により、まちの強化を図る複数分散型で駅北地区での暮らしの向上と交流を目指します。
- ・③について、駅北地区で市が保有している土地を有効に活用することで、事業の実行性を高めることができます。

子育て支援
機能の強化

- ・②について、「乳幼児向け屋内の遊び場」、「専門的な子育て相談の場」、「高齢者の活躍の場」の充実により、さらに活動の推進と連携の促進が図られると想定しています。
- ・③について、保護者間交流や屋内の遊び場は「第2期子ども子育て支援事業計画」や「保護者アンケート等」で要望があり、新たな市民サービスとしての対応が期待されています。これらの整備により子育て支援を中心にした多世代交流も可能です。

にぎわいの拠点施設の方向性について

実践会議では、3つの視点をふまえ、単体でにぎわいを創出する拠点から、他の施設や戦略の活動と連携する複数分散型の拠点の一つとして、まちに必要な機能のアイデア出し（子育て支援＋α）を行います。



公共施設とその機能

施設名	機能
駅北広場キターレ	市民交流、チャレンジ、防災
復興住宅	住宅、地域コミュニティ
地区公民館	生涯学習、社会教育
市民公園	安らぎ、防火、地域コミュニティ

戦略実践活動の内容等			
テーマ	子育て	地産地消	高齢者元気
ねらい	まちぐるみで子どもを見守り、育てよう	糸魚川にあるもので豊かに暮らそう	いつまでの、ぴんぴんにっこり暮らそう
活動名	まちなかアソビバ、駅北ブライド活動	小さな農園、料理教室、定期市	まちなか健康体操
活動内容	子どもが遊べて、ババママの集まれる場を設置。地域行事を通じた当事者意識の醸成。	コンテナを使ったまちなか農園活動。地場産野菜を使った食事等提供。定期的な対面型移動小売の場づくり。	G E O 体操のモデル活動の実施

駅北まちづくり戦略の活動を支援します

市では、駅北まちづくり戦略を策定（令和2年10月予定）することとしており、その活動を後押しするため、補助金制度を設けました。

駅北大火の記憶を語り継ぎ、戦略の推進につながる活動等を引き続き支援します。

○対象事業 駅北まちづくり戦略の推進につながり、次年度以降も継続する次に掲げる事業

- (1) 地域で子どもを見守り、育てることを促進する事業
- (2) 市民が市民に地産地消の良さを伝えることを促進する事業
- (3) 高齢者の活躍及び健康を促進する事業

○対象団体 構成員が5人以上の民間団体

○補助対象経費 継続して活動するために必要な消耗品（取得単価が3万円以下の物品で、飲食物、景品等の物品は含みません。）

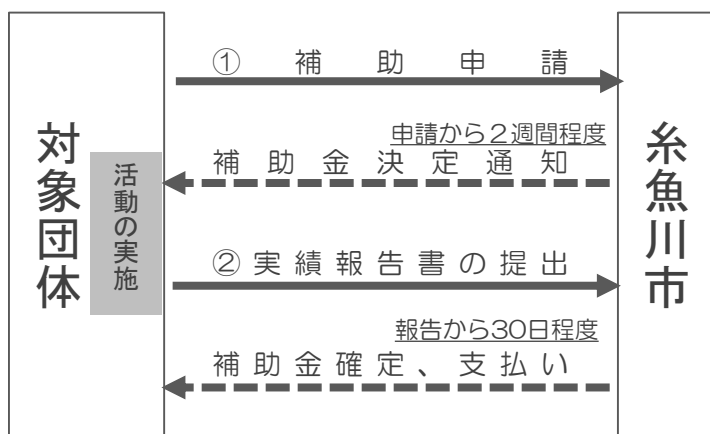
○補助金の額 補助対象経費の全額とし、上限を10万円とします。

○その他

- ・戦略策定前であっても対象事業に合致する事業の補助申請は、令和2年5月以降に随時、受け付けます。
- ・広報のため、活動実践までの取り組み等の取材や発表をお願いすることがあります。
- ・令和元年度まで消耗品を支給していた事業を補助金制度に制度改正しています。

次年度以降に
使えるものを買おう！

○補助金申請等の流れ



○申請に必要な書類等

- ①補助申請
 - ・申請書
 - ・事業計画書
 - ・収支予算書
- ②実績報告書
 - ・収支決算書
 - ・補助対象経費の証拠書類（受領書等の写し）
 - ・事業実施の状況がわかる写真等

申請書等はホームページからダウンロードできます。

